



揖斐川→

揖斐川の川原植物について解説をする清水政美さん（揖斐川右岸36Kp付近＝大垣市馬ノ瀬地先）

『秋の揖斐川を探訪』 河原植物の勉強会と川下り！

河原に咲く植物を学ぶ勉強会が10月12日（日）、大垣市揖斐川河川防災ステーション（同市馬ノ瀬地先）で開かれました。木曽三川フォーラム（おの けんご小野賢悟会長）が主催したもので、揖斐川では今回が初めて。関係者や一般市民ら15名が参加し、河川敷に自生する黄金色に色づいた河原植物を採取し、標本と照らし合わせながら、身近な植物について知識を深めました。

講師を務めた（社）自然学総合研究所の^{しみず まさみ}清水政美主任研究員から、この辺りに生息している植物の名前や特徴、在来種と外来種に分けて教えていただきました。清水さんは「揖斐川には、現在、150～200種類の河原植物が生息しているが、その半数は外来種である」とした上で、「外来植物は引き抜くときに少しでも根が残ったり、種が落ちたりすると、また生えてくる。完全に駆除するためには、何年もの間かけて継続的に駆除作業を行うことが必要。大切なことは、外来種を入れない、捨てない、拡げないことだ」と訴えました。



川原で採取した植物を分類する参加者ら
＝ 大垣市揖斐川河川防災ステーション（大垣市馬ノ瀬地先）

その後、一行は、揖斐川をEボートで下るリパークルーズに参加。平均年齢約70歳の乗船者10名を乗せたEボートは、舟の外装色と同じ「シルバー艇」と命名（笑）。国道21号線の新揖斐川橋から名神揖斐川橋までの7キロ区間を、約2時間弱をかけてゆったりと下り、秋の舟下りを堪能しました。

舟首に木曽三川フォーラムの小野会長、舵取りに柴田事務局長が構え、14時30分に揖斐川河畔をスタート。水深は1～2m程度、想いのほか、流れが緩く、川の流れに身を任せながら、川面から眺める揖斐川の原風景に癒やされながら、舟はゆっくりと下流へ下っていきました。

揖斐川第二出張所も乗船させていただき、乗船者らに、川の流れや川底の状態、また、揖斐川の歴史などガイド役として説明をさせていただき、乗船者の1人は「揖斐川の浅瀬には多くのサギなどの鳥類が羽を休めており、河川環境に富んだ良い川ですね！」と感想を述べてくれました。



大河に向けボートを漕ぎ出し出発



大垣大橋を川面から見学



浅瀬で羽根を休めるサギたち



ゴール地点となった名神揖斐川橋地点 二大垣市今福地先（揖斐川河口から約33.6K地点）
写真右から4人目が細野揖斐川第二出張所長